

# 【2009年度 第1回 HLA 委員会 議事録】要旨

日時 : 2010年1月23日(土) 15:00~18:15

出席委員 : 一戸辰夫委員、加藤和江委員、加藤俊一副委員長、木村彰方委員、佐治博夫委員、  
中島文明委員、村田誠委員、森島泰雄委員長(計8名、五十音順)

陪席 : 田中秀則氏(中央骨髄データセンター)、川瀬孝和氏(愛知県がんセンター中央病院)

## 審議事項

### 1. 新たな解析結果に伴うドナー選択への位置づけ

川瀬孝和先生から以下の解析結果が発表され、委員の意見を反映した上で公表することとされた。

- (1) ドナー由来のT細胞から見たHLA-Cの適合度とNK細胞受容体(KIR2DL ligand)の適合度に基づいた治療成績の分析
- (2) 非血縁者間骨髄移植における許容可能な遺伝子型 HLA 型不適合組合せの検討

### 2. 新検索システムにおけるドナー検索評価点

(中央骨髄データセンターのシステム更新に合わせ、ドナー検索評価点等を変更することになっている。)

#### (1) 検索評価順位の確定

ドナー検索に関する評価順位の策定ワーキンググループ(以下、WG)で決まった検索評価点案について、最終的な確認がされた(別紙参照)。

#### (2) 提供履歴ありドナーの評価

2006年常任理事会の決定内容に従った順位で提供履歴があるドナーを評価するのは、システムの仕組み上、また、日赤の予算上不可能である。このため「同じHLA適合評価点の中で下位になるような減点とする案」を示し、代替案の方がHLA適合優先とする考え方からは納得しやすいとされた(別紙参照)。

#### (3) 抗原内アリル頻度に基づく評価

登録ドナーのうちアリル未検査ドナー(約4割)を、見なし4桁化し検索に活かしたいというWGからの提案について、中央骨髄データセンターにてハプロタイプから導き出した4桁化について具体的に検討していただくこととされた。

### 3. 高頻度アリルの呼称変更について

中央骨髄データセンターより、現在使用している蛍光ビーズ法で検査した結果を高頻度アリルとして4桁を提示することで、日赤の蛍光ビーズ法であれば他の検査機関とは別の結果が出せるといった誤った認識を持たれやすい、また、高頻度アリルに該当しない場合があるため、高頻度アリルという呼称を参考アリルに変更したい旨、申し出があった。これについては、中央骨髄データセンターから、新しい呼称をご提案いただくこととされた。

### 4. HLA 精度に関するインフォームドコンセント(IC)

患者、医師への説明内容について確認がされた。

蛍光ビーズ法で出された結果(高頻度アリル)とSBT法で出された結果(確定アリル)の違いについて説明を追加することになっていたが、高頻度アリルの呼称変更とともに見直しを行った(ICの内容は、医療委員会を経て、常任理事会で審議予定)。

### 5. 新しいHLA Nomenclature への移行

WHOでHLAのアリル命名規則が変更されることになり、今後、関係機関と協議の上、取り扱いを決めていくこととされた。

以上

## 2. (1) 検索評価順位の確定

検索評価点（点数は仮置き）

### 1. 基本点

適合状況	評価点
6 抗原マッチ	400,000
DR ミスマッチ	300,000
B ミスマッチ	200,000
A ミスマッチ	100,000

### 2. アリルを含む HLA 型評価点

	HLA-A	HLA-B	HLA-DR	HLA-C
アリルマッチ	3,000	3,000	1,000	2,000
コードマッチ	2,900	2,900	900	1,900
抗原マッチ				0
アリルミスマッチ	-100,000	-100,000	-20,000	-75,000
抗原ミスマッチ				-80,000
解析結果に基づく ミスマッチの組合せ	-400,000			

### 3. HLA 以外の評価点

優先順位	ランク	現行の評価点	新案
1	血液型 ABO 一致	4	4
2	血液型 Rh 一致	3	体重比率と同点:3
2	体重比率	120% < 3	80% 加点 :3
	性別一致	0	0
	年齢	20~29 歳:2 30~39 歳:1	0
	居住地域	0	0
4	確認検査省略可能		加点
5	ドナー確定回数		回数に応じて減点

## 2. (2) 提供履歴ありドナーの評価

2006 年常任理事会の決定事項	今回の HLA 委員会の決定事項
DNA 一致 DNA 未検査 DNA ミスマッチ (DRB1) 1 回提供履歴あり DNA 一致 DNA ミスマッチ (C) 2 回提供履歴あり DNA 一致	DNA 一致 提供履歴なし DNA 一致 1 回提供履歴あり DNA 一致 2 回提供履歴あり DNA 未検査 提供履歴なし DNA 未検査 1 回提供履歴あり DNA 未検査 2 回提供履歴あり DNA ミスマッチ (DRB1) 提供履歴なし

2006 年に決定していたが、2009 年度日赤システムリプレイスに併せて変更予定だった。